ポスターセッション | フォロー四微症、右室流出路閉塞

ポスターセッション-外科治療05（ P74）
フォロー四微症、右室流出路閉塞

座長:
深江 宏治（熊本市立熊本市民病院 小児心臓外科）
Thu. Jul 7, 2016 6:00 PM - 7:00 PM ポスター会場 (天空 ノース)
P74-01～P74-05

6:00 PM - 7:00 PM

[P74-04]弁機能からみた当院の肺動脈弁置換中期成績

○石道 基典, 福場 遼平, 今井 健太, 菅野 勝義, 伊藤 弘毅, 菅野 幹雄, 井出 雄二郎, 村田 眞哉, 坂本 喜三郎 (静岡県立こども病院 心臓血管外科)

Keywords:PVR、弁機能、予後

【はじめに】生体弁 PVRの長期予後は明らかにされていない。我々の経験とその中期成績を弁機能の観点から報告する。【対象】2000年4月～2015年12月に行った生体弁 PVR66例(In situ(S):58例、 In conduit(C):1例、 Feestyle:7例)を対象とした。手術時年齢は9ヵ月～31歳(中央値13.5)で、10歳未満は20例であった。原疾患は TOF:20、 PA/VSD:29、 Truncus:2、 AVSD/TOF:2、 TGA:7、 cTGA:1、 PS/PA:3、 DORV:2であった。肺動脈弁位に対しては初回手術が６例、再手術以上は60例であった。先行手術は MVOP:49、 RV-PA conduit:3、弁輪温存:6、その他:2で、先行手術時年齢は1ヵ月~17歳(中央値3.5)、先行手術から PVRまでの期間は6ヵ月～21年(中央値11.5)であった。使用生体弁は Mosaic弁:16(S:16)、 CEP弁37(S:36,C:1)、 Freestyle弁:7、 Mitroflow:2(S:2)、 Epic supra:2(S:2)、 ONX:2(S:2)であった。同時手術は PA plasty:29、 PVO release:2、 TVP:7、 MVP:2、 MVR/MVP: 2 、 Ao repair/plication:2、 AVR/AVP:2、 Ds Ao replacement:1、 VSD leak閉鎖:6、 LVOTO release:1、 PM implantation: 1 を行った。【結果】術後観察期間 1～180ヶ月(中央値:48)。手術死亡は1例(IE: rePVR)で、遠隔死亡は認めなかった。2度以上の PR、 transvalvular pressure gradient(ΔPG)≧50mmHgの PSを人工弁機能不全とし、 In situ:58例(手術時10歳未満:16例、10歳以上:42例)を検討した。10歳未満では弁機能不全は10例(62%, PS:5,PR:3,PSR:2)で、5例(31% PS:3,PR:1,PSR:1)で rePVRを行った。10歳以上では弁機能不全は7例(16% PS:2,PR:5)で、2例(4.7% PR:1,IE:1)で rePVRを行った。また、10歳未満で rePVRを要した群で優位に手術時肺高血圧(中央値:27mmHg)を認めた(p=0.04)。【結語】手術時年齢10歳未満の症例では早期に弁機能不全を呈し、再介入を必要とする可能性がある。また、手術時肺高血圧は早期の生体弁変性に寄与し、 rePVRのリスク因子となる可能性が示唆された。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery